

ふるさと探訪

第32回 アクアトピア



神拝の観音水の泉から湧き出す豊かで清らかな水は、多くの市民が生活を営む市街地の中心部を流れ、市民生活を支えるとともに雨水排水路としての役割も果たしてきました。

しかし、高度成長期の工業の発達や市民の生活様式の変化などに伴い、水質汚濁や土砂・ヘドロが堆積するようになり、かつての清流の姿が失われていきました。このような状況の中、市民からも「水の都」の復活と快適な環境を求める声が高まり、市では昭和60年度に当時の建設省からアクアトピア（親水都市）の指定を受け、昭和61年度から4年間公共下水道雨水路整備事業の一環として、ウォーター・スクウェア・プラン（下水道水緑景観モデル

事業）とアクアトピア事業を並行して行い、観音水系の2・4kmを整備しました。事業に際しては、特に水の都という特異性を考慮し、自然に近い形で整備することを基本に、親しみのもてる場所となるよう市民からのアイデアを募集するなど、市民と行政が一体となった取り組みが行われた結果、清らかな水が流れ、市民が集う、憩いの水辺空間が復活しました。

現在では隣接地に総合文化会館や総合福祉センターも建設され、施設利用者の散策道としても親しまれています。



花がいっぱいの
春のアクアトピア水系 ▲

総合福祉センター横の散策道 ◀

手づくり郷土賞大賞の受賞要因
となった市民による清掃活動 ▶

